日立京大ラボ・京都大学　シンポジウム

生物の社会性に学ぶ新たな社会システムの可能性
ーQoLの向上をめざしてー

生物界には、ハチやアリのように、集団において各自の役割が規定されている、いわゆる社会性昆虫と呼ばれる種が存在します。またゴリラのように、立場の強い者同士の喧嘩を弱い立場の者が対面姿勢でコミュニケーションを図り仲裁する種も存在します。また、人はなぜ国家などの大規模かつ複雑な社会を構成し、互いに協力しあえるのでしょうか。生物が持つ、このような社会性から我々はQuality of Lifeの向上のために何を学ぶことができるでしょうか。本シンポジウムでは、Quality of Lifeの向上をめざして、生物や人の社会性に関する研究発表を通じて、新しい社会システムの可能性について探ります。

日時　**2020年2月10日(月) 13:00-17:30**（開場12:00）

場所　**上野イーストタワー 2F Main Meeting Room**
〒110-0015 東京都 台東区東上野2-16-1

■**主催**　**日立京大ラボ、京都大学**
■**参加費**　**無料**
■**申し込み**
https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hqrd/event2/form.jsp
からお申し込みください。
締め切り　**2020年2月7日(金)**
定員350名になり次第、締め切らせていただきます。

プログラム

13:00 -13:10	**開会挨拶**	**木村 俊作** 京都大学 産官学連携本部副本部長 **鈴木 教洋** 日立製作所 執行役常務CTO兼研究開発グループ長
	第一部：生物の社会性に学ぶ社会システムの可能性	
13:10 -13:45	**「イヌはなぜヒトの友達になった？遺伝子からみる動物のこころ」**	**村山 美穂** 京都大学 野生動物研究センター教授
13:45 -14:20	**「イルカの水中社会性」**	**酒井 麻衣** 近畿大学 農学研究科講師
14:20 -14:55	**「アリ社会の研究は人間社会に何をもたらすか？」**	**土畑 重人** 京都大学 農学研究科助教
14:55 -15:10	**休　憩**	
	日立京大ラボ　研究紹介	
15:10 -15:40	**「社会・環境・経済価値の定量化とQoLの向上」**	**嶺 竜治** 日立製作所　基礎研究センタ日立京大ラボ長代行
	第二部：人の社会性に学ぶ社会システムとQoL向上の可能性	
15:40 -16:15	**「ヒトの向社会的行動の生物学的基盤とQoL」**	**高岸 治人** 玉川大学　脳科学研究科准教授
16:15 -16:50	**「人のコミュニケーションとQoL」**	**高田 明** 京都大学　アジア・アフリカ地域研究科准教授
16:50 -17:25	**「風土建築から見えるQoL」**	**小林 広英** 京都大学　地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林教授
17:25 -17:30	**閉会挨拶**	**西村 信治** 日立製作所　基礎研究センタ長

第一部：生物の社会性に学ぶ社会システムの可能性　13:10-14:55

イヌはなぜヒトの友達になった？遺伝子からみる動物のこころ

村山 美穂
京都大学 野生動物研究センター 教授

動物の性格や行動は、環境要因も大きいが、遺伝の影響も少なからずある。最も古い家畜のイヌでは、祖先であるオオカミとの遺伝子の比較から、家畜化の過程で社交性を高めるように選抜された形跡が見つかった。言葉によるコミュニケーションができないヒト以外の動物では、性格に関わる遺伝子の情報がヒトとの間の溝を埋めるのに役立つかもしれない。

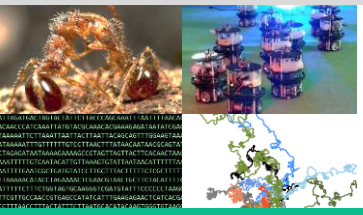
イルカの水中社会性

酒井 麻衣
近畿大学 農学研究科 講師

イルカは複雑な群れ社会に生活する。ここでは彼らの個体同士の接触(ふれあい)や、動きの同調について紹介する。ヒトとは異なる環境で生活し、遠い系統に位置するイルカと私たちの社会や行動を比較し、ヒトの社会やコミュニケーションについて考える材料を提示したい。

アリ社会の研究は人間社会に何をもたらすか？

土畑 重人
京都大学 農学研究科 助教



アリは私たちヒトとは全く異なる生物だが、かれらの個体としてのふるまいや「社会」の仕組みをつぶさに調べると、私たちが自分自身に照らし合わせてその合理性に驚き、ときには身につまされるような現象を見出すことができる。適応進化に基づくマクロ生物学の視点に立ち、彼らの「社会」の研究が人間になにをもたらしうるかを考えたい。

日立京大ラボ　研究紹介

社会・環境・経済価値の定量化とQoLの向上

嶺 竜治
日立製作所 基礎研究センタ 日立京大ラボ長代行

日立は、社会イノベーション事業を通じたQoL向上をめざしており、経済価値や環境価値に加え、文化や公平性などの社会価値を向上させることが課題である。
日立京大ラボは、大学との学際的な共同研究を通じてこの課題の解決に取り組んでおり、この活動で得られた知見や新たな課題、今後の取り組みについて述べる。

第二部：人の社会性に学ぶ社会システムとQoL向上の可能性　15:40-17:25

ヒトの向社会的行動の生物学的基盤とQoL

高岸 治人
玉川大学 脳科学研究科 准教授

ヒトにおいてみられる協力的な社会は如何にして形成され維持されてきたのかという問いは社会科学のみならず生物学においても重要な問題として扱われてきた。
本発表ではヒトの向社会的行動を支える脳、ホルモン、遺伝子の働きについて報告するとともに、QoLの向上における向社会的行動の役割について議論したい。

人のコミュニケーションとQoL

高田 明
京都大学 アジア・アフリカ地域研究科 准教授

赤ちゃんと養育者の間でコミュニケーションが成立していく過程における文化的道具の重要性を示すことを通じて、人におけるQoLの基盤について考える。さらに、文化的道具によって行為や思考のアウトソーシング／インフラリッシングが拡張・複雑化してきたこと、それを受けた現代的なQoLのあり方について論じる。

風土建築から見えるQoL

小林 広英
京都大学 地球環境学堂・地球環境学舎・三才学林 教授

地域に根ざした建築の再建プロジェクトを通して、自然資源、人的資源、知的資源により成り立つ建築のあり方をみたとき、私たちの日常にある建築物とは異なる存在が立ち上がってくる。伝統という過去ではなく、自らの生活に依った生きた建築として捉えることで、グローバル化が進む現代社会において再びローカリティの価値を認識する。

問い合わせ先：日立京大ラボ　075-753-9716